

## 国立大学法人名古屋大学の平成 17 年度に係る業務の実績に関する評価結果

### 1 全体評価

名古屋大学は、総長が学術憲章と「名古屋大学運営の基本姿勢」を公表し、中期的な教育、研究、管理運営に関する基本指針を明らかにするとともに、法人経営体制の確立のために、「総合企画室」、「産学官連携推進室」、「国際交流協力推進本部」、「情報連携統括本部」、「環境安全衛生推進本部」を運営支援組織として設置して、大学運営を推進している。

平成 17 年度は、21 世紀 C O E 等のプログラムの推進、多くの競争的外部資金の獲得、

約 4 億

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 15 事項(重要性を勘案したウエイト反映済み)すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供

評価の充実

情報公開等の推進

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

平成 17 年度実施の国立大学法人評価委員会によるヒアリングにおける委員からの指摘を踏まえ、監査室の設置を決定するとともに、評価結果を踏まえて、附属学校のあり方を検討する総長直属の「附属学校特別委員会」の設置を決定するなど、外部の評価結果を積極的に大学運営に反映させている。

同窓生、学生・保護者、地域住民等に広く大学の活動を紹介するため、「名古屋大学ホームカミングデー」を開催し、約 2,000 名が参加するとともに、学生の保護者に対する教育目標等の紹介、学生の就職・進路等に関する懇談に約 800 名が参加した。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項(重要性を勘案したウエイト反映済み)すべてが「年度情報公開等の推進実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められる。

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

6

•

「エネルギー管理標準」をホームページで公表するとともに、夏・冬の室内温度設定の徹底等を電子メール、ポスター等で周知し、鶴舞キャンパスにおいて、エネルギー原単位1%削減を達成している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 21 事項(重要性を勘案したウエイト反映済み)すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## ・教育研究等の質の向上

評価委員会が平成 17 年度の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

「名古屋大学国際化推進プラン」の策定や、全学的な国際協力・交流活動支援のための規程・Web サイト等の基盤整備といった取組は、国際化への大学の組織的な取組として評価できる。

全学教育科目において、学生、教員、ティーチングアシスタント(TA)を対象に授業評価アンケートを実施した。科目別 FD において、高い評価を受けた教員によるグッド・プラクティス報告を行い、アンケート結果について意見交換する等、授業改善への取り組みを行った。すべての学部・研究科において、学部専門教育・大学院教育における授業評価アンケートを実施した。

大学間の共同教育プログラム実施事例を調査し、結果を報告書に掲載した取組は、名古屋大学のみならず、他の大学の参考にも供する取組と評価できる。

トップレベルの研究の象徴である「高等研究院」では、高等研究院教員をさらに厳

に変更し、海外の大学との単位互換を円滑化した。

太陽地球環境研究所は、国際共同研究プロジェクト「太陽地球系の気候と天気